

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 2010(平成22)年度事業報告

国際協力事業：アジア事業	2010年度事業決算	16,132,926円
--------------	------------	-------------

●カンボジア地雷埋設地域村落開発プロジェクト【カンボジア】

バタンバン州カムリエン郡の3村で、村落開発支援を実施しています。3村は、いずれも提携する地雷撤去団体MAGによって地雷撤去が実施され、村人の生活圏内の地雷は撤去されましたが、まだ村の中には地雷原が残っている場所があります。11 このプロジェクトでは、村人たちの自治によって村を発展させ、最貧困層、特に厳しい生活環境におかれている地雷被害者やその家族の生活をサポートしていくものです。

～ オッチョンボック村 ～

村落開発支援を始めた2008年以来、小規模融資や健康保険の制度を村人たちが運営してきました。この融資によって、73%の家族が収入を向上させました。また、2010年は6名の村人が保険を申請し、健康保険の適用を受けています。そして、2年で1,400,000リエル（およそ350USドル）が、健康保険の資金として村の住民組織に貯蓄されています。また、長崎ピースミュージアム様からいただいた絵本を、村の小学校へ寄贈し、図書コーナーを設置しました。

～ プレア・プット村～

プレア・プット村の住民組織では、2009年より、村長を中心に小規模融資や健康保険の制度の運営を始め、2010年度は、村で亡くなった人の家族へ保険が適用されています。

プレア・プット小学校では、第4回「頑張らない」チャリティ・バドミントン大会での収益からご寄付いただき、学習机と椅子のセットを126個購入しました。同小学校では、10月に長崎のNPO法人コミュニティ時津の5名の皆様に来ていただき、バレーボールやサッカーボール、絵本を寄贈いただくとともに、小学校の壁のペンキ塗りを、先生や子どもたちと一緒に実施しました。

また、同じくNPO法人コミュニティ時津の皆様からいただいた資金で、最貧困層の地雷被害者家族に子豚と鶏などを購入するとともに、テラ・ルネッサンスからは、豚舎建設や自然養豚方法を用いた豚飼育の技術を地雷被害者家族へ提供しました。

その他、竹製の地雷うちわの製作方法を貧困層の村人たちに訓練し、彼らの収入向上に役立てています。この村では多くの竹が自生しており、この竹を利用してうちわを製作し、地雷や不発弾が危険であることを知らせる地雷回避教育用にデザインされたポスターをうちわに張ってもらいました。



ペンキ塗り



子豚と遊ぶ子ども



地雷うちわ製作

～ ロカブッス村 ～

2011年1月より新たに支援を開始し、村人たちと村に住民組織を設立し、小規模融資や健康保険の仕組みづくりを始めました。今後、地雷被害者家族や最貧困層家族の職業訓練などによって、生活再建支援を実施していく予定です。

～サムロン・チェイ村～

2010年6月、稲の栽培方法のワークショップ（稲の種籾の選別方法）を開催しました。

●カンボジア地雷埋設地域小学校建設プロジェクト【カンボジア】

2011年3月より、バタンバン州バヴェル郡のブオ・ソクリアチ村にて、外務省日本NGO連携無償資金協力による小学校建設に着手しました。このプロジェクトでは、6教室の小学校校舎だけでなく、トイレ、雨水を貯める貯水タンク、教員用宿舎も同時に建設し、教員、生徒用机椅子、黒板を提供することで、地雷に汚染されているために開発の遅れた遠隔地における初等教育環境を整備します。小学校の完成は2011年夏を予定しています。

●カンボジア地雷埋設地域伝統音楽復興&継承プロジェクト【カンボジア】

2010年11月より、バタンバン州カムリエン郡のオッチョンボック村にて、トヨタ財団のアジア隣人プログラムの助成金によるプロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、村の地雷被害者を含めた貧困層の村人たちが、カンボジアの結婚式で演奏されてきた伝統音楽を楽団として演奏することで、ポル・ポト時代に破壊され、長い内戦によって村人たちが楽しめなかったクメール伝統音楽を復興し、そして若い世代にもその演奏と音楽を継承していきます。



練習風景

●カンボジア地雷回避教育プロジェクト【カンボジア】

テラ・ルネッサンスでは、地雷の危険性を知らせる地雷回避教育用グッズとして地雷うちわを製作し、提携する地雷撤去団体MAG (Mines Advisory Group) のコミュニティ・リエゾン・チーム (Community Liaison Team)が実施する地雷回避教育のワークショップで、地雷埋設地域に住む住民たちへ配布しています。2010年度は、4,500枚の地雷うちわを製作し、29回のワークショップにおいて、合計3,490枚の地雷うちわを配布し、残りのうちわは地雷問題の啓発用としてバッタンバンや、日本で販売、配布しています。



地雷うちわを手に持つ子どもたち

●カンボジア地雷撤去支援プロジェクト【カンボジア】

2011年3月に行ったスタディツアーの際に、提携する地雷撤去団体MAGへ、地雷撤去活動費として4,000ドルを提供しました。

●クラスター爆弾禁止条約第1回締約国会議【ラオス】

2010年11月、ラオスの首都ビエンチャンで開催されたクラスター爆弾禁止条約の第1回締約国会議に参加しました。条約は、クラスター爆弾の使用、製造、保有を禁じ、8年以内の廃棄と10年以内の不発弾除去を定めています。会議では、早期の廃棄・除去開始を明記した「ビエンチャン宣言」や、今後の活動を導く明確な行程表のある「ビエンチャン行動計画」を採択しました。今後、この行動計画をもとに実際の行動に移すことが一番重要です。

この会議では、さまざまなクラスター爆弾に関する活動を実施している NGO や政府関係者が集まっており、現在のラオスでの支援の全体像を知ることができました。わずか0.4%しか撤去できていないといわれる不発弾撤去とともに、被害者の支援が明らかに不十分な状態にあることから、テラ・ルネッサンスでは、シエンクアン県での除去支援を継続し、犠牲者支援を開始する準備をしています。

国際協力事業：アフリカ事業	2010年度事業決算	17,761,687円
---------------	------------	-------------

●ウガンダ北部における元子ども兵社復帰支援プロジェクト【ウガンダ】 (対象地域：グル県)

2010年6月、3期生37名が無事、卒業しました。多くは子ども時代に誘拐された元少女兵で、非常に長期にわたり反政府軍に捕えられていました。当会の社会復帰センターに受け入れた当時は、過去の経験を思い出すこともしばしばあり、授業にも集中できず、教室を飛び出してしまう生徒もいました。また、一般社会で生きる知識や技術もなく、ほとんどの生徒は収入がゼロでした。

しかし、当会センターでの職業訓練や基礎教育などを経て、今では平均すると約8,000円の月収を得ることができるようになっています。この額は、現地の小中学校の教員や警察官の初任給などとほぼ同じ水準です。そして、半年以上この収入は安定しており、中には、自分や家族の衣食住だけでなく、親戚の生活を支えたり、近隣の貧しい住民が困っている時に助けてあげている生徒もいます。

また、受け入れ当時、近隣住民から元少女兵だという理由で差別や偏見を受けて周囲との関係をうまく築けない生徒もいましたが、今では全員が家族以外に相談できる友人がコミュニティーにでき、村社会での相互扶助（助け合い）活動にも参加しています。



卒業式にて



●不法小型武器問題の啓発活動【ウガンダ】 (対象地域：カンパラ市)

ウガンダ国内で不法小型武器問題の啓発活動に取り組むNGOのネットワーク組織であるUANSA(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)との定期的な情報交換を行い、各種会合へ参加しました。また、これらの会合の中で、小型武器の被害を止めるためには、ウガンダ国内だけでなく、小型武器の流入が頻繁に行われている近隣諸国を含めた、「アフリカの角・大湖地域(東アフリカ地域)」に広がる市民社会の協力・ネットワークを強化することが重要との認識から、同地域の市民社会のネットワークであるEAANSA(東アフリカ小型武器行動ネットワーク)が効率的に情報交換し、協働していくために、ノートパソコンの供与とソーシャルネットワークの活用方法についての研修を行いました。

●東部コンゴにおける元子ども兵及び紛争被害者支援【コンゴ】

昨年度に引き続きコンゴ民主共和国東部での事業を、南キブ州にて、同州ブカブ市に拠点を置く現地NGO「GRAM（グラム）」と連携し実施しました。同事業では、2008年、株式会社アイケイ様のグローブ基金により完成したグローブハウスⅢを拠点に、同州カロンゲ区域の12ヶ村の元子ども兵、性的虐待を受けた女性、孤児などの社会的弱者711名及びその家族2,700名を対象に、紛争下で基本的ニーズを満たすことを目標に行っています。今年度、実施した活動は下記のとおりです。

～食料確保のための相互扶助（助け合い）活動～

同地域は現在も武装勢力（FDLR）の影響下にあり、村々の襲撃や住民の殺害、食料の略奪などによって人々は不安定な生活を余儀なくされています。こうした状況の中、必要な食料を確保するために相互扶助グループを組織し、農業指導や農具、種子の供与、魚の養殖池の整備などを行ってきました。

昨年同様、12カ村（12グループ）は、昨年の収穫物（キャッサバ、サツマイモ、ジャガイモ、豆、マトウケ、ヤムイモ、メイズ、キャベツ）から種子を確保して栽培を開始しています。そのうち、9グループは、今年も順調に栽培が進んでおり、各グループのメンバーが協力して、個人の土地の開墾、共同農地の開墾、栽培を行っています。また、昨年は、市場で販売するだけの余剰作物を生産することはできませんでしたが、今年は、各グループが共同農地で収穫された農作物の半分を市場で販売し、現金収入を各グループが共同貯蓄する予定です。貯蓄金は、グループのメンバーが病気や怪我の治療など現金が必要な時のために使っています。

一方、残りの3カ村（3グループ）は、政府軍、反政府軍双方からの襲撃や略奪が続くなどの治安悪化のため、農地を耕すことが困難になり、一時的に中心地であるカロンゲに近い他のグループの村に避難せざるを得なくなり、避難先の土地で、当地のグループメンバーの協力を得て、食料生産を行っています。彼ら彼女らには、豆などを緊急支援し、半分は臨時の食料として、半分は避難先での栽培用の種子として利用しました。また、農機具が不足・欠損しているメンバーに対して、97個の農機具部品（鋤の刃）を提供しました。このような不安定な状況が続いていますが、グループ間の協力を促進しながら、これら3カ村のメンバーからも自給食料が確保できるように支援を継続していきたいと思っています。



農地の耕作



提供した農機具

～収入向上のための職業訓練～

2010年6月、毎日新聞大阪社会事業団様からのご寄付で溶接技術の職業訓練資材を購入し、元子ども兵や紛争被害者を対象に技術訓練が開始されました。この職業訓練によって、10名の元子ども兵が溶接技術を身につけることができました。同地（カロンゲ区域）には、溶接技術を持った職人や溶接加工所が存在せず、彼らの技術は地域住民にとっても有用なものです。今後、彼らはこの技術を活かして、自分の生活を安定させ、同時に地域住民の生活再建にも貢献していきます。



訓練資機材を手に



技術訓練

～その他の活動～

事業実施地域の南キブ州カロンゲ区域には1つの病院と16の診療所があり、人道援助団体がワクチンの接種など医療支援を行っています。多くの人々（特に5歳未満の乳幼児）が、予防または治療可能なマラリアや下痢、栄養失調などによって命を落としているのが現状です。同事業では、現地の病院や診療所、他の援助機関らとも協力しながら、マラリア予防のための啓発活動や蚊帳の配布、基礎健康教育など、受益者及びその家族が健康を維持するために必要な支援活動を行っています。

2010年5月には、政府軍や反政府軍の兵士によって性的暴力の被害を受け、5歳未満の子どもを抱えている女性を対象に、マラリア予防の啓発活動を行い、300家族に蚊帳を届けることができました。



蚊帳の配布



日本	2010年度事業決算	20,759.426 円
----	------------	--------------

1. 啓発事業

本会の活動や、取り組んでいる課題（地雷、小型武器、子ども兵）についての啓発活動を、講演やイベントなどの実施を通じて積極的に取り組んだ。

●講演

本会職員による講演を各地で実施。企業での講演が増加した。主なテーマは、「地雷畑で見た夢（地雷）」、「ぼくは13歳 職業、兵士。（子ども兵）」、「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した（社会起業）」

●主催イベント

9年間の活動を振り返った10周年記念イベント及び活動報告会を計6回実施した。延べ700名が参加。

- 05月14日（金） 鬼丸昌也講演会（京都）
- 06月19日（木） 総会記念イベント（京都）
- 10月30日（土） 設立10周年記念イベント（愛知）
- 10月31日（日） 設立10周年記念イベント（東京）
- 11月06日（土） 設立10周年記念イベント（京都）
- 02月26日（土） 鬼丸昌也講演会（東京）



10周年記念イベント

●各種イベントへの参加

下記イベントに参加し、本会の活動紹介や取り組んでいる課題の啓発などを行った。

- 06月12日（土）～13日（日） アフリカンフェスタ（主催：外務省）
- 06月12日（土） チャリティバドミントン大会（主催：頑張らないバドミントン研究会）
- 07月26日（月） チャリティチャイルドカット（主催：クンクンルーホー）
- 09月11日（土）～12日（日） チャリティバザー（主催：宗教法人松緑神道大和山）
- 10月02日（土）～03日（日） 国際協カステーション（主催：財団法人京都府国際センター）
- 10月08日（日） 「平和」・「当たり前」を考えるシンポジウム（主催：株式会社沖縄教育出版）
- 10月24日（日） ヒューマンステージ・イン・キョウト2010（主催：京都市）
- 11月21日（日） 京都ヒューマンフェスタ（主催：京都府）
- 11月22日（月） チャリティチャイルドカット（主催：クンクンルーホー）
- 11月27日（土） 「子どもたちを救え！」児童労働の現実とILO/NGOの取り組み
（主催：「地球の未来に、いっちょかみ。」実行委員会）
- 02月05日（土）～06日（日） ワン・ワールド・フェスティバル（主催：同実行委員会）

●スタディツアー

下記のとおり、カンボジアでスタディツアーを企画した。参加者は合計8名。

- 03月06日（日）～03月13日（日） カンボジアスタディツアー8名

●インターネット

公式ウェブサイト、公式ブログ、カンボジア事務所ブログ、理事長ブログ、職員ブログなどを開設し、適宜、活動の最新状況を伝えるべく更新作業を行った。さらには、特設ページとして、不要になった携帯電話回収事業（ケータイ for コンゴ）サイト、一青窈デザインチャリティTシャツサイト、東日本大震災復興支援サイトを立ち上げ、更新作業を行った。また、メールマガジン「テラ・ルネニュース」を定期的に発行し、911名（2011年3月28日現在）の読者に、活動報告、イベント情報などを提供している。

●報道

理事長講演やイベントを開催するごとに、プレスリリースを発行し、取り組みが報道されるように努めた。

●インターン、ボランティアの受け入れ

今年度は4つの受け入れ方法で、延べ17人のインターンを育成した。

テラ・ルネッサンス 独自受入インターン（半年～1年以上）		昨年度より継続受入5人 新規受入3人 延べ8人	
受入目的	①長期的に事業にかかわってもらふことで、当会の事業を担う人材を育成する。 ②当会の事業を通じ、「平和な社会」を自ら作り出せる人材を育成する。		
受入実績	継続～11月	立命館大学博士課程前期2回生	ボランティア事業担当
	継続～03月	龍谷大学4回生	回収事業/10周年記念イベント担当
	継続～09月	立命館大学4回生	Webサイトリニューアル事業担当
	継続～11月	立命館大学4回生	物品販売担当
	04月～継続	神戸大学博士課程前期1回生	ケータイ for コンゴ事業担当
	10月～継続	立命館大学2回生	回収事業担当
	02月～継続	立命館大学3回生	広報事業担当
	継続～継続	大阪大学4回生	ケータイ for コンゴ事業担当

大学コンソーシアムインターンシッププログラム (夏季2カ月間)		1人	
受入目的	当会の事業を通じ、職業としてのNGO・NPOを就職の選択肢として考えてもらうきっかけとする。また、企業に勤めた際にも、社会貢献の視点を持った働きかたをしてもらうよう、育成する。		
受入実績	08月～継続	同志社大学3回生	事務局業務補助担当

長期実践型インターンシッププログラム（半年間）		6人	
受入目的	① 京都のNPO 6 団体が協働し、次世代のNPOワーカーを育成する。 ② NPOの現場に即したインターンプログラムを構築する		
受入実績	継続～05月	立命館大学 3 回生	パネル事業担当
	04月～継続	立命館大学 3 回生	回収事業拡大プロジェクト担当
	04月～11月	佛教大学 3 回生	回収事業拡大プロジェクト担当
	04月～11月	龍谷大学 3 回生	物販事業担当
	10月～12月	大阪大学 3 回生	回収事業拡大プロジェクト担当
	10月～継続	立命館アジア太平洋大学 4 回生	回収事業拡大プロジェクト担当

春季集中型インターンシッププログラム (2カ月間)		2人	
受入目的	① 京都のNPO 6 団体が協働し、次世代のNPOワーカーを育成する。 ② 社会の課題や地域のニーズを明らかにするリサーチ型インターンシップとなり、チームを組んでアンケートやインタビュー調査を実施し、その結果を今後の運営に活用する。		
受入実績	02月～継続	同志社大学4回生	募金箱プロジェクト担当
	02月～継続	京都府立大学 3 回生	募金箱プロジェクト担当

2. 東日本大震災における、被災者支援「ともつな基金」事業に関する報告

●設立経緯

「これまで日本人からの支援を受けて、命を助けられ、自立してきた。今回は私たちが日本人を助けたい!」。アフリカの元子ども兵、カンボジアの地雷被害者など、これまで私たちが関わってきた多くの人々から寄せられた、日本を支援したいとの声。今回の未曾有の災害に対して、海外での援助活動を行ってきた団体として、私たちができることはあると考え、海外から寄せられた声にも後押しされ、私たちは日本人として行動を起こすことを決意した。そして、この活動を、「被災者と『とも』に。みんなと『とも』に。ともにつながり合って、この難局から立ち上がるために、「ともにつながろう（ともつな）」基金と名付け、国際協力NGOとしての経験を活かして、被災者の方々が少しでも早く生活を再建できるために、息の長い支援を続ける。

●活動概要

(1) 緊急人道支援

現地入りしているNPOや市民団体と連携し、現場のニーズに応じた、被災者への物資提供を行った。

- ・茨城県北茨城市への救援物資配布（協力：がんばろう茨城！学生ボランティアチーム）
生理用品や、おむつなどの生活用品、野菜ジュースやレトルトご飯などの食品、及び、作業時に必要な備品として、ポリバケツや、土のう袋を提供した。
- ・宮城県石巻市への救援物資配布（協力：石巻支援NPO連絡会）
携帯ラジオ・ペンライト・電池の3点セット（105組）などを提供した。

(2) 中長期的な生活再建支援（自立支援）

被災地、もしくはその周辺に拠点を置き、職員を雇用し、長期的な視野で現地の生活再建をサポートしていく。

●2010年度の活動詳細

2011年3月11日発生した、東日本大震災を受け、3月12日に被災者支援の活動を行うことを発表した。3月14日に、ウェブサイト上で「ともつな基金」を立ち上げ、3月30日に、専用の口座を開設した。集まった資金を基に、京都にて物資を買いつけ、3月23日～3月26日まで、茨城県北茨城市の被災者へ緊急支援物資の提供を行い、3月27日には宮城県石巻市へ緊急支援物資を載せた車が出発した。また、岩手県陸前高田市から連絡のあった物資の買い付けを3月30日より開始した。

- 03月12日（土） 被災者支援を決定、声明を公式ブログにて発表
- 03月14日（月） 公式ウェブサイトにて、募金の呼びかけを開始、海外事務所の職員からのメッセージをウェブに紹介
- 03月15日（火） 100,000円を提携先である被災地NGO協働センターへ寄付
- 03月16日（水） 【北茨城】がんばろう茨城！学生ボランティアチームより鬼丸に連絡届き、協力を約束
- 03月18日（金） 【北茨城】北茨城市への物資買い付け開始
- 03月19日（土） 【北茨城】がんばろう茨城！学生ボランティアチームより必要物資リスト到着
- 03月22日（火） 「ともつな基金」特設サイトオープン、新たにクレジットカードからの寄付機能を追加
【北茨城】茨城県北茨城市への買い付け（ボランティア、11名）
- 03月23日（水） 北茨城】茨城県北茨城市への買い付け（ボランティア、17名）、茨城へ向けて出発
- 03月24日（木）～26日（土） 【北茨城】茨城県北茨城市にて物資提供
- 03月26日（土） 【陸前高田】NPOみんつなと提携
- 03月27日（日） 【石巻市】ラジオを積んだ車両が出発
- 03月30日（水） 【陸前高田】買い付けの開始、ともつな基金専用口座開設

3. 組織運営に関する報告

●会員現況（2011年3月末日現在）

正会員166名、個人賛助会員498名、ジュニア賛助会員17名、団体賛助会員46団体、ファンクラブ会員427名 【合計延べ1,154名】 /ルネッサンス・プログラム・サポーター（里親）39名

●各種回収キャンペーン

今年度、書き損じハガキ、使用済みインクカートリッジなど、国際協力事業費に充てるための回収キャンペーンを実施。

●協力団体との連携

今年度は8団体に加盟し、さまざまな協働事業、キャンペーンなどを実施したり、自団体の活動を展開する上で有益な情報を得ることができた。

加盟団体：関西NGO協議会、地雷廃絶日本キャンペーン、日本小型武器行動ネットワーク、ウガンダ小型武器行動ネットワーク、国際小型武器行動ネットワーク、世界子ども兵禁止連盟、京都NGO協議会、児童労働ネットワーク

体制

●役員（理事、監事）

2010年度の役員は、次のとおり。（2011年3月31日現在）

理事 小川真吾（理事長）、岡田則子、鬼丸昌也、中井隆栄

監事 本田俊雄

※2011年3月より、鬼丸昌也にかわり、小川真吾が理事長に就任。

●事務局体制

京都事務局 有給専従職員4名 インターン15名で運営を行った。

ウガンダ事務局 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ14名で運営を行った。

カンボジア事務局 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ7名で運営を行った。